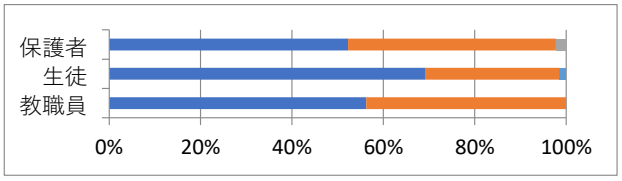
令和5年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

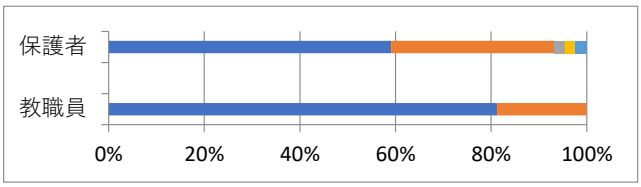
1　一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていると思いますか。



2　道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

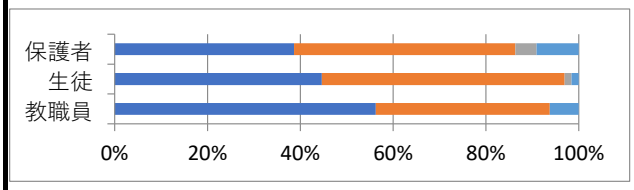


考察〇一人一人の子どもを大切にした指導や対応について、保護者９７％、生徒９８％、教職員１００％が肯定的評価であり、非常に高い。生徒一人一人に寄り添った関わり、日常の保護者とのよりよい関係づくりについて、今後も継続させていきたい。〇道徳・心の教育の充実については、保護者９３％、教職員１００％が肯定的評価である。１１月を中心とした「心かがやけ月間」で、その趣旨やあらゆる取組について教職員・生徒が共通認識を持ち、カリキュラム・マネジメントを意識し、皆で一丸となって取り組んだことが効果的だったと考えられる。特に「道徳の日」では、保護者参加型の全校道徳科授業を実施し、子どもとおとなが共に考え、議論することができた。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

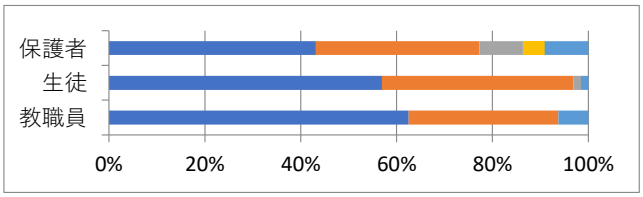
3　授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4　タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

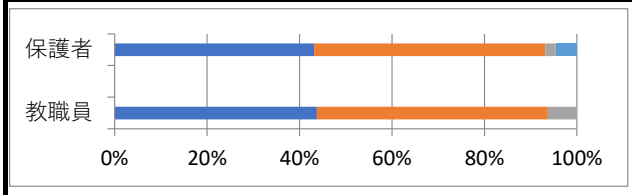


考察〇わかる授業、楽しい授業づくりについての生徒の肯定的評価は９７％であり、昨年度より８ポイント高い。保護者は８７％であるものの、昨年度より６ポイント高い。今後も「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業改善を全教職員で継続して行っていきたい。〇子どものタブレット端末を活用した学習については、生徒９７％、教職員９４％が肯定的な評価であるが、保護者は７７％であり、学校での取組が保護者に十分に伝わっていないといえる。今後も活用を推進しながら、学校だよりや授業参観等において、子どもによるタブレット端末の活用や効果を積極的に発信していきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

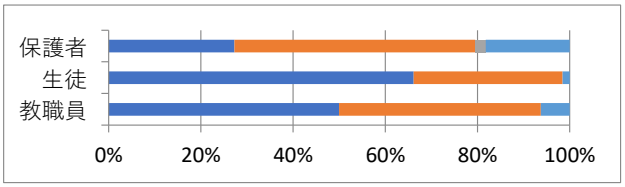
5　学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6　共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。

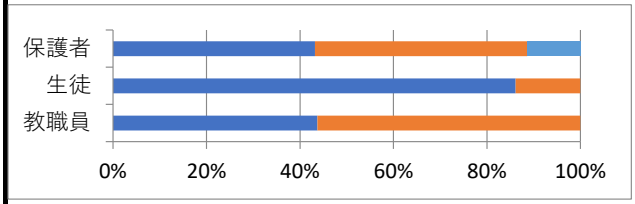


考察〇学校の支援体制については、保護者の肯定的評価が９３％であり、昨年度より１１ポイント高い。特別支援教育に対する理解や支援体制が保護者に浸透してきたと思われる。〇「交流及び共同学習」等が相互理解につながっていると思う保護者は７９％で昨年度より５ポイント低いが、一方で生徒は９８％と高い肯定的評価である。子どもたちは日々の交流の中で、互いの個性・多様性をしっかり理解しており、今後はそのことを保護者の理解にまでつなげることができるような取組を工夫していきたい。

④　学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

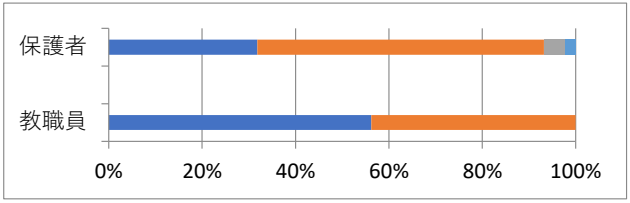
7　安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8　家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

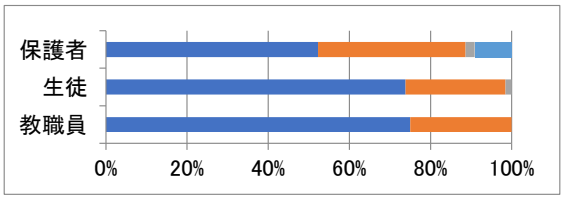


考察〇安全教育については、生徒の肯定的評価が１００％で、昨年度より９ポイント上昇した。避難訓練を含めた安全指導に加え、３年生を中心に、防災に関することを総合的な学習の時間で探究的に学んだ成果だと考えられる。〇家庭や地域との連携・協力については、保護者の肯定的評価が９３％で、昨年度を７ポイント上回った。再生資源回収や河内川清掃、学校行事の駐車場係など、親師会（PTA）役員さんを中心に常に学校に協力していただいていることがありがたい。

⑤　学校独自評価

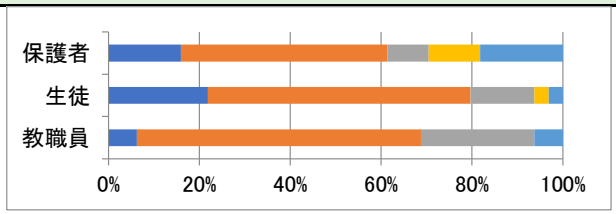
9　豊かな人間性の育成

学校が行っている道徳の授業や人権学習は、子どもが人間としての生き方について考えを深めたり広げたりするものになっていると思いますか。



10　確かな学力の向上

子どもは、予習・授業・復習の「学びのサイクル」を大切にして学習に取り組んでいると思いますか。

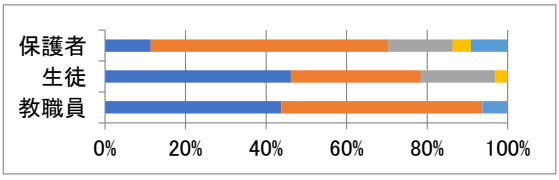


考察〇道徳科や人権学習の授業が、人間としての生き方について考えを深めたり広げたりするものになっていると思うのは、生徒９９％、教職員１００％と大変高く、保護者も８８％である。ローテーション道徳科授業や学年部協働による人権学習、保護者参加型の全校道徳科授業などが効果的だったといえる。〇予習・授業・復習の「学びのサイクル」の定着については、肯定的評価が生徒７９％、保護者６１％、教職員６９％と他の項目と比較して低い。河内中「学びタイム」を効果的に機能させ、授業の工夫・改善と合わせて、子どもが自ら学びに向かうサイクルづくりを校内研究の柱とし、今後も研究・実践していきたい。

⑤　学校独自評価

11　健やかな体の育成

学校は、子どもの（早寝・早起き・朝ご飯などの）基本的な生活習慣や体力づくりについて、家庭と連携しながら努めていると思いますか。



考察〇基本的な生活習慣や体力づくりについて家庭と連携しながら努めているかという問いで、肯定的評価は教職員９４％に対し、生徒７８％、保護者７０％だった。特に早寝・早起き・朝ご飯などの基本的生活習慣については、その課題がよく見えるのは家庭である。今後、学校がどのようにアプローチしていき、家庭と具体的に連携していくのかを再考しなければいけない。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て
○学校評価は全体的に大変高い結果となった。維持・向上していけるよう、今後も学校全体で生徒一人一人を大切にした取組を行い、家庭や地域との連携を図っていきたい。 ○本年度は１１月４日（土）の「道徳の日」に保護者参加型の全校道徳科授業をし、現代的な課題である「ジェンダー平等」について子どもとおとながともに考え、議論した。この授業は熊本市の教育広報誌「with you」にも掲載された。来年度以降もさまざまな道徳的課題をテーマにし、この取組を続けていきたい。 ○学校から家庭や地域に発信する機会をこれまで以上に増やしていく必要がある。例えば、生徒向けの講演会に保護者や地域の方々にも参加していただく、授業参観日以外にも学校開放日を設けて学校の様子を見ていただく、学校だよりを学校評議員をはじめ地域の方々にも配付するなどである。

学　校　関　係　者　評　価
○学校独自評価項目について、「９　豊かな人間性の育成」に保護者、生徒、教職員が高評価になっている。「人としての生き方」についての学校の取組がよかった結果だと思う。 ○生徒と教職員との関係が良い学校は今の時代、本当に希少だと思う。このまま伸び伸びと生活できる学校であり続けてほしい。 ○挨拶がとても爽やかで気持ちがよい。授業態度も心配な点はない。靴箱の靴も並べてあり、気持ちが落ち着いていることの表れだと思う。 ○図書室の本が充実しており、掲示物も興味深く、読書活動が推進されていると感じる。 ○校則検討委員会では、校則を自分たちの力で変えていこうとする生徒会に頼もしさを感じた。時代とともに校則や制服の見直しは必要だと思う。 ○学校だよりの中で、中学校の行事等、明るく生徒たちの活躍も拝見することができてよかった。 ○う歯の生活は減っているが歯垢と歯肉に問題がある生徒が多く、驚いた。正しい歯磨きの指導が家庭でも学校でも必要だと感じた。 ○もっと地域の方も参加できるような行事等の取組をしてほしい。